

品川区いじめ対策委員会（第3回）

議事録要旨

1 日時

平成29年3月21日（火）午前9時30分から午前11時30分まで

2 会場

教育文化会館3階 第1講習室

3 審議

- (1) 平成28年度（平成29年1月末現在）のいじめ事例の実態
- (2) 平成28年度「品川区いじめ防止対策の取組」の成果と課題
 - ① 目安箱、アイシグナル、専用電話
 - ② ハーツ
 - ③ いじめ防止対策推進基本方針
- (3) 終わりに

4 出席者

斎藤尚也委員長、池田幹雄委員、岡本淳子委員、新藤こずえ委員

5 発言要旨

(1) 平成28年度（平成29年1月末現在）のいじめ事例の実態

- 今まで推測で議論されてきた事案について、ある程度のデータが示され裏付けができたことに大きな意義があると思う。
- いじめの一つの要因として、スマートフォンの所持率が上がり、大人が見えないところでのやりとりが増えていることがあるのではないかと。
- 子どもたち同士の人間関係が変わることがいじめの原因となることも考えられる。小学校から中学校等環境が変わった場合に、いじめに発展してしまうこともあるのではないかと。
- 学級集団が安定しているということがとても大事である。学級担任が集団を掌握するためには、規律正しさが大切であると思う。
- 同一人物が複数回いじめに及んでいるケースでは、加害の子の特性や家庭環境が影響しているのではないかとと思われる。指導することの他に、子どもが抱えている問題についてサポートしていくことも必要である。

(2) 平成28年度（平成29年1月末現在）のいじめ事例の実態

①目安箱、アイシグナル、専用電話

- 目安箱やアイシグナルについては、主訴内容が変わってきたり、専用電話等のツールで相談が挙がってきたりしているため、形を変えても良いのではないかと考える。
- ハーツの認知が拡大したこと等により、保護者からの専用電話へのニーズが圧倒的に多くなってきている。
- 専用電話のアプローチでは、自分の抱えている葛藤等を言葉で伝えるため、次への展開につながりやすいというメリットがあると考えられる。

②ハーツ

- 「三区（品川・大田・目黒）SSW合同連絡協議会」や「東部地区都立高校生進路支援連絡協議会（東京都教育委員会）」等に参加し、関係機関との連携促進を図っている。
- 家庭環境や不登校の問題は、学校外に出ていかなければならないため、教員だけで対応するのは難しい。いじめだけでなく、家庭環境や不登校の問題についてもハーツが役割を果たしていくことは、学校や教員のニーズにも合っているため良いと考える。
- ハーツのいじめ対応における課題は、いかに学校内において効果的なチーム体制の構築に携われるかということである。また、ハーツの専門性やスキルの向上にも努めている。

③いじめ防止対策推進基本方針

- 昨年9月に「品川区いじめ防止対策推進基本方針」を制定した。各学校は本基本方針を受けて、それぞれの実態に応じ「学校いじめ防止基本方針」を改定していく。

(3) 終わりに

- 小さな問題でもいじめにつながる場合があるので、課題解決につなげるためには、積極的に情報共有していかなければならない。
- 3年生頃のギャングエイジと呼ばれる時期に子ども同士の発達段階に応じたかわりが少ないために、上手くコミュニケーションがとれず、思春期を迎え対人関係が築けずに、トラブルを起こしてしまうことがあると考えられる。子どもたちの対人関係に中学年の時期の過ごし方が大きく影響しているのではないかなど、今後も様々な検証を行っていく。